

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

達成度（評価）

A：十分達成できている

B：おおむね達成できている

C：やや不十分である

D：不十分である

学校名

唐津市立成和小学校

1前年度
評価結果の概要

・全ての評価項目で「おおむね達成」または「十分達成」の評価であった。校内研究の「かく」ことの指導や貸出冊数1人100冊、校内特別支援委員会の体制づくり等で特に成果を上げた。

・「学力向上」については、校内研究を中心に「楽しくかく」段階から2年目の「わかる段階」へ移行し、思考力を育成する指導方法の工夫を進めていく。

・「不登校対策」については、引き続き「不登校を生まない学校づくり・学級づくり」に取り組んでいく。保護者とのつながりを深め、組織的な対応を行っていく。外部機関との連携も充実させる。

・「キャリア教育」については、児童が夢や目標を持つことができるよう学校行事、体験活動等の充実を図り、主体的に取り組む児童の育成を目指す。

・「安全教育」については、地域と連携を図り、安全教育の充実を図る。交通安全指導や不審者対応、児童引き渡し訓練等を計画的に行い、安全に関する資質・能力を育成していく。

2学校教育目標

「ハート」「パワー」「チャレンジ」～わたしらしく あなたらしく～

あたたかく、力強く、自分らしく、目標にチャレンジする成和っ子の育成

3本年度の重点目標

①思考力・表現力の向上を目指した学びの充実

②不登校・いじめ問題への早期・組織的な対応

③特別支援教育の推進と校内支援体制の充実

④組織力を生かした業務の改善と時間外勤務時間の縮減

4重点取組内容・成果指標

5最終評価

(1)共通評価項目

重点取組

重点取組

成果指標
(数値目標)

具体的取組

達成度
(評価)

最終評価

実施結果

評価

学校関係者評価

意見や提言

主な担当者

●学力の向上

○校内研で進める「思考力を育成する指導法の工夫」の授業実践

○「かくこと」に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上

・自分の考えに加え、友達の良い意見・考えを取り入れて、さらによい考えるような授業を実践する。
・貸し出し冊数1人100冊達成者の増加を目指し、図書館教育に力を入れる。

B

・学校評価アンケートの「授業では、自分の考えや気持ちを言葉や文、図などでかくことができますか。」という項目で、83%の児童が肯定的な回答をした。数値目標には到達しなかったが、自分の意見が書けなくても、友達の見解やクラスの意見を進んで書き加える児童が増えた。

A

・自分の考えをきちんと発表できるのはうれしい。児童に自信がついてよい。
・この取組を継続することが、表現方法の違いや友達を受け入れたら、自分の考えを深く追求したりするきっかけとなり、考えを表現することへの意欲につながる。
・授業参観でも活発な取組が多く見られた。

・学力向上コーディネーター
・研究主任

●心の教育

●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動

○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童85%以上

・ふれあい道徳や人権機会、道徳に関するアンケートを実施する。
・職員間による教材や資料の共有化を図る。
・保護者や地域の方と連携した体験活動を実施する。

A

・学校評価アンケートの「道徳の授業では、しっかり考えて学習していますか。」という項目では、92%の児童が肯定的な回答をした。よって、取組内容やその具体的取組は一定の成果を上げたと言える。
・人権擁護委員会をゲストティーチャーに招いて、全学年で実態に応じた人権教室を行った。それぞれの違いを認め合えるあたたかい学校づくりに学校全体で取り組むことができた。

A

・児童の心により響く内容を取り上げて道徳の授業に力を入れてあるのを感じる。
・家庭でも、授業内容を思い出して保護者に話をしていることが想像できる。

・道徳教育推進教員
・人権・同和教育担当者

●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実

○「いじめに関して、情報の共有化を図り、迅速で組織的な対応ができている」と回答した教員90%以上

・未然防止のため、各クラスにおいて、支持的風土のあるあたたかい学級づくりを進める。
・ケース会議を開き、情報の共有化を図り、最善策をとる。
・心のアンケートを実施する。(年3、4回)
・夏季休業中に研修会を開き、いじめの定義や認知・認知の共通理解を図る。

A

・学校評価アンケートの「いじめなどの問題行動を早期発見・早期対応するために、学校で組織的な対応ができている。」の項目では、44%が大体あてはまる。56%があてはまるという結果になったところから、いじめの早期発見、早期対応は、充実していると見える。
・重大事案にも対応できるように、報告、連絡、相談を組織的に行っている。児童からの聞き取りや指導、保護者への連絡を迅速かつ丁寧に行っている。

A

・対応の早い学校だと感じる。
・いじめアンケートは、一度立ち止まって向き合う時間にもなり、もしもの時はすぐに対応してもらえる環境にあるという安心感にもつながる。
・いじめ問題は大変なようだが、児童が楽しい学校生活を送ることができるよう、努力をしていきたいです。
・スマートフォンの取り扱いについては、高学年で特段の配慮が必要である。

・生活部
(教頭)

●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動

●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」に回答した児童95%以上

●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童85%以上

・一人一人に役割や出番を与えられるような学級活動や児童会活動の工夫、達成感や自分の良さを感じられるような教師の働きかけをする。
・成果を確かめるための児童・教師アンケートを実施する。(3学期)
・行事や各種活動において目標設定や振り返りを行うよう働きかける。
・各学年に応じたキャリア教育を年1回は行う。

A

・学校評価アンケートで「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童が89%と高かった。「PUSHコース体験」の導入や幼稚園児との交流など学年の特性に合わせたキャリア教育を実施したことで、児童の視野を広め、意欲を高めることにつながった。
・「先生は、あなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童が98%だった。研修等で他の学校の「褒める」取り組みを学んだり、担任している学級の児童だけでなく、他学級の児童の良さも積極的に見つけ、共有やフィードバックをしたりすることで、児童と教師の信頼関係が高まった。

A

・児童の顔を見てしっかりほめてあげてください。
・児童には夢や目標を持って頑張ってほしいと思う。
・児童が、担任の先生以外からも顔と名前をよく覚えてもらい、関わりが多い学校だと思ふ。
・児童の良いところや少しの成長も児童本人や保護者への声かけをよくして下され、学校全体で関わり合い取り組んである印象が強い。

・特活部

●健康・体づくり

①「運動習慣の改善や定着化」

①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間420分以上の児童生徒70%以上

・外遊びの奨励と環境づくりを推進する。
・体育委員会を中心にスポーツチャレンジの取組を行い、体力向上に努める。

B

・学校評価アンケートの「昼休み、帰宅後以外で運動やスポーツををしたりして、運動していますか。」の項目では、53%がしている。26%がだいたいしている結果だった。以上のことから、1週間420分以上運動やスポーツを行っている児童は70%には達していないという結果だった。児童の運動量は十分に確保できていると考える。
・年間を通して計画的に外遊びの推奨やスポーツイベントの実施により、運動量を確保する取組を継続していきたい。

B

・児童が帰宅後遊ぶ環境がない。公園等の児童が遊ぶ場所がない地域がある。場所があったとしても、制限が看板に書いてあり、体を使って伸び伸びと遊ぶことができない。だから道路上で遊んでいる児童を見かけることがある。
・安心して遊ぶことができる場所が欲しいと思う。

・保体部

②「望ましい生活習慣の形成」

②毎日朝ごはんの摂取率90%以上、毎日の健康観察・衛生検査とともに指導を行う。
・保健の授業で指導を行う。

B

・学校評価アンケートの「毎日、朝ごはんを食べていますか。」の項目において、88%が食べている。8%がだいたい、2%があまり食べない、1%が食べていないという結果だった。目標値には届かなかったが、朝食への意識が高まっていることが感じられた。
・「ハンカチやティッシュを忘れずに持つことができているか。」という項目では、98%がしているという結果だった。まだ衛生管理への意識の向上が必要なので、おたよりなどを通して家庭との連携を図っていくたい。

B

・朝ごはんをぜひ食べさせたい。親の責任が大きいと思う。
・保護者の意識が低い。学校は保護者に啓発をしていると思う。今後も粘り強く啓発活動を継続して、少しでも保護者に関心を持ってほしい。

・保体部

③「安全に関する資質・能力の育成」

③児童の交通事故・犯罪被害を0(ゼロ)にする。

・年度当初、職員と地域の方と一緒に校区内巡回を行い、通学路や危険箇所の確認を行う。
・自転車の乗り方、道路の渡り方を中心に交通安全指導を行う。
・外部講師を招いて、1年生防犯教室を実施する。
・今年度も、1月31日に安全集会を行い、命を守るために、学校のまわりを守ること、地域の人につかり挨拶することについて指導を行うことができた。

A

・学校評価アンケートの「交通事故に遭わないよう道路での歩き方、自転車の乗り方に気をつけていますか。」の項目では、75%がしている。20%がだいたいしている。残りのパーセントがあまりしていないという結果だった。以上のことから、危険と分かっている、危険な歩き方や自転車の乗り方が5%もいるので、継続的に注意喚起を促していく。
・今年度も、1月31日に安全集会を行い、命を守るために、学校のまわりを守ること、地域の人につかり挨拶することについて指導を行うことができた。

A

・交通事故に遭わないように、繰り返し繰り返し言って聞かせてほしい。
・命を守るためには、挨拶をすることが大切だと思う。朝、通学路に立って挨拶をしているが、挨拶をする児童と、しない児童とに分かれる。
・上級生が挨拶の見本を見せてくれると、下級生も挨拶するようになるのではないかとと思う。
・見守りをする人は、挨拶をしてくれることを喜んでます。

生活部

●業務改善・教職員の働き方改革の推進

●業務効率化の推進と時間外在校等の削減

●繁忙期以外の月を在校時間縮減月間として取り組む。(7月、8月、10月、12月、1月)

・上記月間の時間外在校時間45時間を超えない職員の割合85%以上

・職員の役割分担を明確にし、学校行事の準備等協力体制を築いて業務の効率化を図る。
・定時退勤日を設定する。(金曜日)
・目標退勤時刻を行事黒板に提示する。
・時間外在校時間45時間未満の達成状況を学期末に職員に周知する。

B

・今年度の反省及び来年度行事予定を検討する際に、職員の意見を反映し、業務の効率化について全職員共通理解のもとに協議を行った。
・下級の時間外在校時間の状況については、昨年度と比較して、10月は5時間増であったが、11月、12月、1月は、1、2時間程度減であった。わずかではあるが減少傾向がみられる。
・時間外在校時間45時間を超えない職員の割合は75%で成果指標を達成することはできなかった。

B

・働き方を見直して、先生方自身が元気で楽しく児童に接してほしい。
・学校評価アンケートで、「先生に悩みや困ったこと相談していますか。」の項目で、肯定的な回答をした児童は55%と低かったので、働き方改革を進めて、児童とゆっくり向き合うことができる時間を増やしてほしい。

・教頭

●特別支援教育の充実

●特別支援教育の充実

○月に1回程度、特別支援委員会を開き、教員間で情報共有を行い、児童の状況をつかみ、特別支援の充実を図る。
○特別支援教育に関して保護者への啓発を図る。

A

・上期に引き続き、下期も月1回程度、特別支援委員会やケース会議を開き、情報共有や支援方法の考察を行い、よりよい支援へとつなげた。保護者との情報共有も行き、支援を受ける児童や保護者の願いに添える支援ができた。1年間であった。支援が必要な児童が、担任や養護教諭、生活支援員などから支援を受けながら、安心して学校生活を送ることができた。

A

・学校説明会や学校だよりを通して、保護者への啓発を促進しているのが分かり、ありがたいことです。

・特支援教育コーディネーター

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組

重点取組

成果指標
(数値目標)

具体的取組

達成度
(評価)

最終評価

実施結果

評価

学校関係者評価

意見や提言

主な担当者

○不登校対策・支援

○登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的対応の充実

○「登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的対応ができている」と回答した教員90%以上

・管理職や教育相談主任、特別支援コーディネーター、養護教諭、担任等でケース会議を開き、組織的対応を行う。
・SOやSSW、青少年支援センター等と連携を図り、児童や保護者に寄り添った対応を行う。
・養護教諭、教育講演会、学校だよりを通じて、保護者への啓発を行う。

A

・学校評価アンケートの「登校に不安を感じる児童・不登校児童や保護者への組織的な対応ができている」という項目では、肯定的な回答をした教員は100%であった。また、保護者向けアンケートの同じような項目では、保護者の肯定的な回答は83%であった。
・寒い時期に入り欠席者が増加する傾向があったが、SCやSSWとの連携を深め、完全不登校の児童が給食を食べに来るようになり、保護者が病院を受診したりしたケースもあった。今後も保護者と連絡を取り合ったり、面談をしたりして、つながりを持ち続けて、改善につなげていきたい。

B

・不登校問題は難しい事で大変ですが、これからも組織的な対応をお願いしたい。

・教頭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…意を高める教育

5総合評価・
次年度への展望

・校長のリーダーシップの下、全教職員での共通理解を図り、重点目標を意識した取組を組織的に行うことができた。

・「思考力・表現力の向上を目指した学びの充実」については、校内研究を中心に、自分の考えや気持ちを言葉や文、図などでかく活動の充実を図った。研究2年目の「分かる段階」を意識し、かく内容の質を高めることや児童同士の交流を通して考えを深めることについて協議を積み重ねることができた。次年度は、思考力を育成する指導法の工夫についての研究が3年目の最終年を迎え、「深める段階」を意識した指導法の工夫を進め、思考力・表現力の向上を目指した学びの充実についてのまとめをする。

・「不登校対策」については、早期・組織的な対応を継続し、校内の受け入れ体制や外部機関との連携をより一層充実させる。また、児童が教職員に相談しやすい体制づくりや信頼関係の構築に努めていく。

・「特別支援教育の推進と校内支援体制の充実」については、校内支援会議を充実させ、保護者との面談や関係機関との連携を図ることができた。次年度も相談体制を維持し、児童や保護者に寄り添った支援を組織的に行っていく。

・「業務改善・教職員の働き方改革の推進」については、行事の精選や簡略化、協働体制や役割分担の明確化により、時間外在校時間の減少に努めていく。